ホタルが舞う古里の姿を夢見て
鑑賞会を通して触れ合う大人と子ども

ときどんの池ホタルを育てる会主催 ホタル鑑賞会 6・6土

「ときどんの池ホタルを育てる会」は、徳山区にホタルを復活させようと、関心のある人たちが集まって結成されたグループ。全国各地のホタル保護先進地の取り組みを学ぶため、毎年視察を実施。平成12年から幼虫の放流を実施している。近年では、少しずつ成果が出始め、公園周辺などにホタルが舞う姿が見られるようになってきた。

グループは地区の小学校課外授業にも講師として協力。子どもたちにホタル飼育方法の指導もしている。

毎年グループでは、地域住民を対象としたホタルの鑑賞会を実施。地区の人たちにグループの取り組みや、その成果を公表している。鑑賞会の事前には、回覧板を使って全戸に周知。参加を呼びかけている。

今年は6月6日に鑑賞会を実施。当日は、地区内外から親子連れなど約40人が参加して、ホタルの幻想的な光を楽しんだ。

6月6日、夜8時。あいにくの雨模様。ホタルの飛翔が心配される中で鑑賞会は始められた。

午後8時前から、地区の人たちが徐々に集まり出す。お母さんと手をつないだ子ども、お父さん、おじいちゃん、おばあちゃんも、皆ホタルを一目見ようと、期待を込めた目で飼育ハウスに入っていった。

区役員たちは、雨の影響でホタルが飛ばないかもしれないと心配していたが…。

ハウスの中から「飛んでるよ！光ってる！」と、うれしそうな声が聞こえてきた。中に入ってみると、確かに小さな光があちらこちらに舞っている。何とも幻想的な光景に、思わず引き込まれそうになる。光は15から20くらい飛んでいるだろうか。

「きれいだねえ、かわいいねえ」と昔を懐かしむように光を見つめる大人たち。

「ホタルがわたしの手にとまったよ。どうしよう」と、そこから動けなくなる子どもたち。

感動する心に、大人も子どもも関係ない。参加者全員が、ほのかな光の筋に見入ったままだ。

地区内外から大勢の人が参加したホタル鑑賞会。大人も子どもも関係なく、幻想的な光に心躍らせた。

鈴木俊三さんが子どもたちに説明していた。「ホタルはなぜ光を出すんだと思う？実は繁殖のためなんです。親が子どもを未来に残すために、お互いが光で引き寄せ合っているんだよ」。

子どもたちの目は、俊三さんを見たりホタルを見たりと忙しい。

こことときどんの池に、少しずつ戻り始めたホタルの光。まだその数は昔には遠く及ばない。参加者の一人は「昔は捕まえるほどたくさんいたのに、やっぱり環境が変わっちゃったんだねえ。これからも頑張ってもらいたいねえ」と話しながら帰っていった。

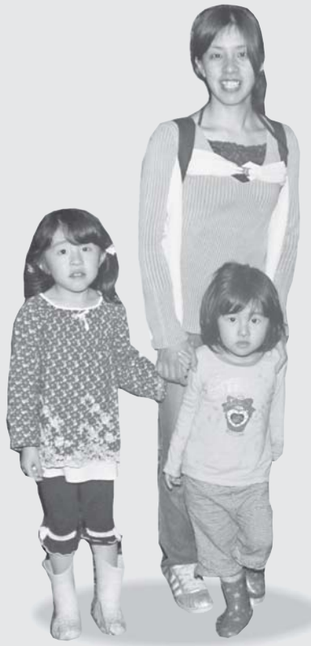
たくさんの地域住民が来場し、鑑賞会は成功に終わった。

そして参加者の中からは、この取り組みを見守り、応援していきたいという声も聞かれていた。

ここにも、育ちつつある心があった。

真っ暗なハウスの中、幾筋もの光の軌跡が来場者の目の前を通り過ぎた。「ホタルを育てる会」が生んだ希望の光だ

昨年、中川根第一小では「ホタルの飼育」に挑戦した。「地元の自慢を、自分たちの手で育ててみたい」と取り組んだもの。ホタルを育てる会のメンバーが講師となり、飼育方法などを学んだ。



子どもとよく遊びに来る公園 ホタルがとてもきれいでした

中谷美幸（みゆき）さん
咲穂（さきほ）ちゃん（6歳・左）
麻瑚（まこ）ちゃん（4歳・右）

美幸さん「わたしたちは、この公園によく遊びに来ます。子どもたちが大好きな場所なんです。鯉を見たり、ザリガニを捕ったりします」

咲穂ちゃん「ここはいつも遊びに来るよ。ホタルを見たのは２回目だよ。最初はパパと見たの。今日は家族みんなで来た。ホタルかわいかったよ」。

麻瑚ちゃん「ホタルがね！わたしの腕に止まったんだよ！すごいね！とってもきれいだったよ」。

特集
地域への愛着心
荒廃農地を再生し、住民憩いの場を創造した徳山区に見る地域愛着心